



【感染症だより】

～RSウイルスについて～

例年よりだいぶ早く、RSウイルス（Respiratory syncytial virus）が流行し始めました。例年では9月ごろから流行し始めますが、昨年は8月から、今年は7月中から出てきています。このウイルスは、咳やくしゃみによって移る飛沫感染が主な感染経路で、潜伏期間は4-6日です。年長児や成人では風邪症状のみですが、特に悪化しやすいのが0歳児です。乳児では気管支炎や肺炎を起こすウイルスで、咳や発熱、喘鳴（ゼエゼエとする）、哺乳低下、苦しくて眠れないなどの症状がみられます。新生児～3か月位の乳児が罹患すると、症状が悪化して入院となることがしばしばあります。はじめは咳や鼻汁の風邪症状だけであっても、急に悪化することがありますので、眠れない、哺乳出来ない（いつもの半分以下）、毎回咳嘔吐してしまう、顔色が悪い、ぐったりしているなどの症状がみられたら夜間でも受診しましょう。咳が出始めると、1ヶ月くらいは持続します。熱が下がっても、咳の激しい間はお休みするのが良いでしょう。

早産児や慢性肺疾患、先天性心疾患などの0-1歳児には、パリビズマブ（抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体）というRSウイルスに特異的なガンマグロブリン注射が保健適応となっています。筋肉注射ですのでとても痛い注射ですが、流行期間に毎月打つことによって、免疫物質を補充することが出来ます。適応期間がかなり限られていますので早産児や心肺疾患のあるお子様の注射ご希望の方は小児科医にご相談ください。

表：7月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	手足口病	59
2	胃腸炎	49
3	溶連菌	40
4	ヘルパンギーナ	26
5	アデノウイルス	19
6	突発性発疹	5
6	RSウイルス気管支炎	5
8	水ぼうそう	2
9	インフルエンザ B	2

★病児保育室あんずからのお知らせ★

8月21～25日は、夏季休業とさせていただきます。ご不便をおかけし申し訳ございませんが、よろしくお願い致します。8月28日から通常通り開室致します。

文責： 清水マリ子

